

古事類苑

方技部六

曆道下 漏刻附

曆本

〔病間長語〕古曆はみな楷字を以て書せしに、いつの比よりこの絲くづの如きものにはなりつらん。徂來子も古曆を觀れば古は民間にても楷字を讀しと見ゆるに、今は眞の倭奴となれりと歎れたり。

〔榮花物語二十七〕略下 芝はすにも成ぬればこよみの軸もとちかうなりぬるを哀にもおもふほどに、

〔夫木和歌抄十八〕家集歲暮

行としをこよみのちくにまきよせておひはてにける身をなげく哉

〔市中取締類集九ノ七十八〕上

源仲正

出雲寺金吾

覺

- 御用納之分
- 一折曆
- 一併
- 御用納之分
- 一柱曆
- 一併

- 此度相改
- 代八分
- 賣捌直段相改
- 代四十八文
- 此度相改
- 代壹分
- 賣捌直段相改
- 代六文